

# 大学入学共通テスト試行調査 2018.11 英語(リスニング)

## 全体概要

制限時間	30分	配点	100点	大問数	6大問
出題分野				英語	
難易度	※対現行センター試験			難	
解答形式				マーク式	
主な特徴	※対現行センター試験			第1～3問は現行のセンター試験同様に音声は2回流れるが、第4～6問は1回のみ。	

## 全体出題傾向

### ◆第4問以降は聞き取るチャンスは1回だけ。難易度も大きく上昇

問1～問3までは身近な内容の話題が中心であり、短めの英文を聞きとる。使われている表現も易しめのものが多い。現行のセンター試験と同じく、2回聞くことができる。

一方、問4～問6では音声は1回しか流れないことに加え、流れる英文の量も多くなり、読み込まなければならない資料が出題されたり、設問文も複雑になったりと、難易度は明らかに現行の試験より上がっている。

## 対策

### ◆「聞き取る力」＋「問題を解く力」

日ごろから英語を聞く練習をするのはもちろんだが、「聞きとる」だけではなく、「問題に答える」練習も大事になってくる。正解を選ぶためには、聞こえてくる英文の全体を把握しつつ、大事なポイントをメモし、設問文や、選択肢と照らし合わせなければならない。メモひとつとるにも、多くの問題を何度も聞き、解いていくなかで大事な情報を見極められるようになってくる。まずは今回の問題を何度も解き、解答のために必要な情報をメモできるように練習していくことから始めるのがよいだろう。

## 大問別コメント

### 第1問

A、B合わせて7問で共に短い発話に関する問題。Aは使われている表現も平易なので問題はないだろう。Bに関しては短めの文ながら、文法の知識、特に時制に関する正確な知識がないと明らかに解けないような問題になっているため、現行の試験にはない種類の問題である。

### 第2問

4問全て短い対話に関する問題である。日本語で場面設定がされているため状況も想像しやすく、選ぶイラストもわかりやすいものになっている。現行の問題と同様に短めの対話から必要な情報を掴む能力が求められているので、対策もしやすい問題である。

### 第3問

第2問と同じく短めの対話に関する問題であり、日本語での場面設定も示されている。問いの英文もすでに書かれているため、どの情報を聞けばいいのか準備がしやすくなっている。対話の内容も服装や映画についてなど日常生活に即したわかりやすいものである。

### 第4問

A、Bともに日本語で状況を説明する文と一緒にイラストや図表も書かれているため、処理しなければいけない情報は多くなっている。英文の素材、使われている表現は現行の試験のレベルとあまり変わらないが、やはりこの大問から音声は1回しか聞けなくなるということに注意をしなければならない。また「選択肢は2回以上使ってもかまいません」といった設問の指示が初めて出題された。

### 第5問

長めの講義を聞き、それについてのワークシートにメモをとりながら答えていく問題と、その講義に関するグラフについて答えていく問題の大きくわけると2種類になっている。特に最初の問題に関しては60秒の間、状況や問いを読む時間が与えられるが、書かれている情報量が多く、その時間内に全てを理解するのは難しいと思われる。音声を聞き、メモを取りながら、ワークシートが何を示しているのか理解していかなければならない。

また全体の内容一致問題も出題されており、ワークシートに直接関わりがない部分も最後まで聞き取る必要がある。音声だけでなく読解の能力も必要になっているので明らかに現行の試験より難しくなっている。

### 第6問

1つの話題に対して複数の発言者のそれぞれの要点や立場を理解する問題。A、Bふたつにわかれており、Bに関しては「反対」「賛成」と直接的にどの発言者も言っている訳ではないので、それぞれの立場の根拠となる部分を聞き取らなければならない。現行センター試験(筆記)の第3問Bで出題されている意見内容の要約問題に形式は似ている。